

専齋 SENSAI



臨床検査科の生理検査室にて、超音波検査を練習中のヘリドッグ太くん。
生理検査室では、心電図、肺機能、聴力、脳波、筋電図、超音波検査を行っています。

診療科紹介

Vol.20 産婦人科 PART.2

明日を担う

Vol.6

TOPICS

- ・ベトナム・ハノイ再訪記2018
～異国での手術～
- ・夏の思い出フォトコンテスト

医療雑感

臨床検査科だより

看護部だより

肝がん撲滅運動「市民公開講座」・
「肝疾患患者家族支援会」のご案内

SENSAI ごはん

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.20

産婦人科 PART.2

安心・安全のお産の現場を守る:ALSOの取り組み

妊娠中から厳格な管理を必要とするハイリスク妊娠はもとより、それまではなんの異常も認めなかった正常妊婦（ローリスク妊娠）でも、分娩時には突然の胎児低酸素症や難産、産後大出血など様々な合併症が突発することは稀ではありません。長崎医療センターでは、10年前から「安心・安全のお産の現場を守る」活動として、Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO)-Japanの公認プログラムの産科救急対応シミュレーション・コースを毎年開催しています。当科のすべての医師スタッフと助産師にプロバイダー認定資格の取得を義務づけるとともに、長崎県内外から産婦人科医、助産師、研修医、総合診療医、救命救急医、新生児科医などが当院でのコースを受講しています。ALSOにはチーム医療教育のツールであるTeamSTEPPSの要素がふんだんに取り入れられており、当周産期センターの医療安全文化の醸成にも効果的です。すべての妊婦さんに、安心して安全な出

産の場を提供できるように日々努めています。昨年からはALSOの基礎編としてBLSO (Basic LSO) コースも開催し、救命救急士や消防士の皆さんに好評です。



図1. ALSOシミュレーション訓練（長崎医療センター，2017）
胎児機能不全の想定で吸引分娩による急速遂娩術のワークステーション

WHO/ユニセフ「赤ちゃんにやさしい病院」認定施設

当院は母乳育児を推進する世界保健機構（WHO）/ユニセフ認定の「赤ちゃんにやさしい病院」（BFH [Baby Friendly Hospital]）です。WHOとユニセフは、世界のすべての産科施設に対して「母乳育児成功のための10カ条」を呼びかけ、長年にわたってその10カ条を遵守し実践する産科施設をBFHと認定しています。日本では現在73施設が認定されており、当院もその一つです。妊娠糖尿病を発症した母

体は、お産後5年のうちに10～40%が糖尿病を発症することが知られています。最近、母乳哺育がこの糖尿病の発症に対して予防効果があることがわかってきました。当院の助産師グループは2014年の院内研究で日本人で初めてこの効果を確認し、国内外の学会で報告しました。母乳は赤ちゃんだけでなくお母さんにもやさしい効果があるという日本人初のエビデンスを発信できました。

術後後遺症の少ない子宮がん手術療法

当産婦人科は、県央がん拠点病院の婦人科腫瘍治療センターとして、手術、化学療法、放射線療法の集学的治療を行なっています。進行子宮頸がんの標準根治手術である広汎子宮全摘出術は、従来、膀胱麻痺による排尿障害や下肢リンパ浮腫など、生涯にわたって患者のQOLを下げる術後後遺症が問題でした。広汎術における完全骨盤神経温存術は、その問題を根本的に解決し術後後遺症のきわめて少ない術式と

して開発されました。当院ではすでに2008年から導入して10年を経過し大きな成果を上げています。その効果は劇的で、重症の後遺症の頻度はあきらかに激減し患者の術後のQOLの改善に貢献しています。同術式は術中出血量の軽減にも効果を発揮しています。そのほか、長崎県で最初の子宮頸がんの放射線化学同時併用療法の本格導入（2002年）など、エビデンスに基づく治療で効果を上げています。

ウイメンズヘルスケアの分厚い基盤づくりのための人材育成を目指して

当院産婦人科は、長崎県の「島のお産の現場を守る」ために、長崎県病院企業団とタイアップし、対馬病院、上五島病院の産婦人科診療を支援しています。離島や僻地で働くプライマリケア医の育成は、長崎医療センターの重要なミッションです。先進国では80%を超えるのに対し日本では40%にしか達しない女性のがん（子宮頸がん、乳がん）の検診率、子宮頸がん予防のためにヒトパピローマウイルスワクチンの「惨状」、妊娠・出産年齢の女性の風疹の流行など、残念ながら今日の日本の女性のヘルスケアは先進国では類を見ない最低のレベルです。女性のヘルスケアは産婦人科医だけでなく、プライマリケアの根幹の一つとして、諸外国では産婦人科医とともにプライマリ・ケア医による女性診療が分厚い基盤を形成し、その上でより高度な産婦人科専門医療を支えています。日本では、プライマリケア医の養成課程に女性のヘルスケア習得のためのトレーニングが含まれて

いないため、プライマリケア医の女性診療への参画が得られない現状です。一向に解決の目処が立たない産婦人科医不足と相まって、今日の惨憺たる事態にいたっています。産婦人科医のみならず、離島医療に携わるプライマリケア医にもウイメンズヘルスケアの概念を身につけてもらうことは、当院の産婦人科の重要なミッションであると考えています。プライマリケア医、さらに助産師をはじめとした多職種が協働で、離島や僻地のプライマリケアとしての女性診療を展開する必要がありますと考えています。図1は、対馬病院をモデルに、産婦人科専門医、プライマリケア医、助産師、さらに事務職などの多職種による「島のお産の場を守るプロジェクト」構想の一つのモデルを示しました。まだまだその実現には様々なハードルがあると思いますが、若い人々が中心となってその実現に向けて一つ一つ前進していければと願っています。

周産期医療における家庭医の役割：へき地周産期医療モデル



明日を担う

Vol.6

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。

外科レジデント

いまい まこと
今井 諒

profile

出身地:福岡

出身大学:長崎大学

好きなアーティスト:Alex Goot , The Chainsmokers



Q：医師を目指したきっかけを教えてください。

A：祖父が医者で、医者に憧れて目指しました。

Q：外科を志した理由は何ですか？

A：大学入学時は血液内科を志望していたのですが、大学のwet laboの手技トレーニングに参加して手技がおもしろいと思い、外科を志すことに決めました。

Q：医師として大事にしていることは何ですか。

A：何事にも“妥協しない”ということです。病棟では患者さんに寄り添えるようにとこころがけています。少しでも患者さんの気持ちが楽になればよいなと。

Q：近々結婚すると伺いました。ライフスタイルは変わりそうですか？

A：基本的にはあまりかわらなさそう(笑)ですが。家庭のことも、料理も分担できたらなと考えています。円満な家庭を築きたいですね。

Q：趣味は何ですか？

A：大学時代は、ウインドサーフィン、写真、フットサルと3つを兼部で活動していました。体を動かすのが好きですね。長崎では川棚でサーフィンができるのですが、中々時間がなくてできていませんね。

Q：今後の抱負を教えてください。

A：今は指導医に指示をうけながらの手術ですが、少しでも早く術者主体でやっていけるようになりたいと思います。

Q：長崎医療センターの印象はどうですか。

A：各部署の顔が見やすいし、スタッフも話しかけやすく、働きやすい病院だなと思います。研修医の数も多く、みんなやる気も高いので自分も刺激をうけてより頑張ろうと思います。

【指導医から一言】

後輩への面倒見がすばらしく、とても良い雰囲気をもっている今井くん。若い頃はまわりに目がいけないことが多いのに、研修医向けの縫合ミニレクチャーを積極的にしてくれたりと、とてもありがたい存在です。ぜひ人の上に乗ってひっぱっていく立場になってほしいなと思います。

聞き手:外科治療研究部長 黒木 保



TOPICS

ベトナム・ハノイ再訪記2018 ～異国での手術～

てんかんセンター/脳神経外科医長 小野 智憲



(写真1)

昨年12月にセミナー講師のためベトナム・ハノイを訪問したことを以前本誌でも紹介した。その際の縁もあって、Viet Duc 大学病院のVan Dong He教授より、また学会を開くのでと誘われて8月に再訪した。話は逸れるが、この病院、ピンときた読者もいるかもしれないが、

80年代に大きな話題になった結合双生児だったベトナムちゃんドクちゃんの名前の由来となった病院である。

学会はベトナムてんかん学会(写真1)で、同国内の医師ら200名以上の参加があり、欧州、カナダなど10名ほどの海外招待演者による教育的な内容であった。私もその一人としててんかんの手術に関する講演を行った。当初、講演は一つの予定であったが、He教授より、“休憩なしにするから、もう一つ喋ってよ”と会場でお願ひされ、即興の25分トークも行った。夜には、ガラディナーが開かれ、民族楽器による美しい演奏に酔いしれ、そして美味しい料理に舌鼓をうった(写真2)。

さて、学会も終了し、参加者は三々五々にハノイを離れていった。私はというと、実はもうひとつHe教授と約束があった。“今度来たときはついでに手術もお願いね”。国外での手術は、日本人チームで行った経験はあるものの、一人というのはさすがに少々不安であった。しかも、He教授は再び私に想定外を提供し、事前に知らされて

いたのは別の症例が準備されていた。同じく学会に招待されていた、友人でもある国立精神神経センターの岩崎真樹先生が、“これ大変そうだね、頑張ってね”と励ましの一言を残してくれたが、さすがに落ち着かず、前日は気分転換に出かけた。普段、手術前日は飲まないのだが、賑やかな通りの露店でビールを1本だけゆっくり飲み、リラックスすることにした(写真3)。

手術は、左扁桃核の脳腫瘍による30歳のてんかんの患者で、術後に運動麻痺を生じる可能性もある症例だった。助手を務めてくれた主治医のVan先生が執刀直前に、“この方は農家で二人の娘がいます”と最大級のプレッシャーも提供してくれた。私は道具にはこだわらない方だが、やはり慣れ親しんだものがないと幾分苦勞し、用途の違う道具も駆使しながら行ったので、Van先生にとっては少々手荒い手術に見えたかもしれない。しかし、彼は経験豊富な脳外科医で、私の意図をよく理解してくれて、何とか描いていた作戦通りに全摘できた(写真4)。それから2週間ほど経過し、MRI画像とともに彼からメールが来た。“患者は元気に歩いて退院されたと。”

活気あふれるハノイの街は行くだけでも新しい発見や体験がある。一方で人々の生活感がどこか懐かしい感じもあり、自分の振り返りの時間も与えてくれるようだ。今回は病院のスタッフとも交流ができ(写真5)、共通の思いや価値観をもって友好を深めることもでき、これもまた貴重な時間であった。また彼らとどこかで会うことが次の楽しみになった。

(写真2)
He教授とガラディナーにて(写真3)
活気あふれる夜の通り、
気になっていた
露店デビューも体験(写真4)
手術の助手をしていただいた
主治医のVan先生(写真5)
前日の食事が出たグレープ
フルーツの大きさに驚いたら、
翌日病院のスタッフが市場で
買ってきてくれた

夏の思い出フォトコンテスト



海水浴の思い出 臨床検査科 医師 梅崎 靖

毎年プールだったので、今夏は宮古島に連れて行きました。天気に恵まれ、海がとてもきれいだったので、子どもたちも大はしゃぎしていました。最近はスマートフォンでの撮影ばかりでしたので、新しくカメラを購入しました。迫力を出すため、潜ってから水面ギリギリを広角で狙いました。



優秀賞 緑日 臨床検査科 医師 梅崎 靖



優秀賞 壮大!イグアスの滝と虹 臨床検査科部長 伊東 正博



特別賞 すいか太郎と海 診療放射線技師 緒方 翔吾



特別賞 太陽に向かって 看護師 山口 律子



南アルプスの朝



南アルプスの夕焼け



エアーズロック来年までです!



爽やかな朝のマチュピチュ



Saint Petersburg Stadium



Luzhniki stadium



かき氷めがね



顔よりデカイ夏の風物詩



うちのヒゲおやじ



じゃぶじゃぶ池



海の思い出



MIYAKO BLUE



Sky Jamboree2018



とある夏の日



初!生月っ&初!浮き釣りっ

医療
雑感

最新治療が標準治療になった後 ～ C 型肝炎の治療について ～

臨床研究センター難治性疾患研究部長/肝臓内科 小森 敦正

はじめに

C型肝炎の臨床では、数年前の先端・最新治療が、驚くべき早さで標準治療となりました。専門の私たちが当たり前になってしまっていて、伝えきれていないこともあるのではと感じ、筆を取ってみました。

1. インターフェロンフリー治療とは、インターフェロンを使わない治療です。

C型肝炎の標準治療である、直接作用型抗ウイルス剤(DAA)によるウイルス駆除療法は、インターフェロンを使わないことから、“インターフェロンフリー治療”と称されます。そこで患者さんご家族、開業医の先生、あまねく医療従事者に、老婆心ながらも念を押したいと思います。インターフェロンを使わない＝インターフェロン関連の副作用はない、ということなのです。難易度が極めて少ない治療にもかかわらず効果は絶大、ウイルス消失率はほぼ100%です。自分で飲み心地を評価することはできませんが、風邪(上気道などのウイルス感染)よりも簡単に治療できるのではと思っています。内服期間は概ね2-3ヶ月ですが。

フリーの前にインターフェロンがついているからといって、インターフェロン時代のように、治療そのものに不安を持つ必要はないこと、治療中も普段通りの生活ができること、患者さんの回りの方も、“しっかり内服してくださいね”という点のみまづは確認いただきたいこと、を強調しておきます。

2. もし今からC型肝炎ウイルスに感染したら？

医療従事者が、C型肝炎ウイルスに汚染した医療器具等に暴露したら？筆者にも若い頃そのような経験がありました。もちろん針刺しマニュアルに乗っ取って対応し、労災申請も行いましたが、幸い感染には至りませんでした(実は感染率は1.8%と低いのですが；CDC MMWR 2001)。ただし“感染すると70%は慢性化する！”という事

実が、その当時頭から離れなかったといえは嘘になるでしょう。

今はどうでしょう。初期研修医に聞いてみると、余り深刻には考えていないようです。ただし、「感染が成立してもDAAがあるから心配していません!」という言葉は聞かれませんでした。ごく稀に急性肝炎が重症化することはありますが、あえて心配する必要はないよと、確認したいと思います。

3. C型肝炎ウイルスが消えた後は？

C型肝炎ウイルスが消えて、肝臓での慢性的な炎症“ 火事 “が鎮火したら？

本当に体調が良くなりました!と話される患者さんも多いです。感染が続いているという、心の重しが無くなったという方もいらっしゃいます。そこまでは良いのですが、ウイルスが感染する前の肝臓に戻すことは、残念ながらすぐにはできないと思います。年をとってできた皺を戻すことができないように。

患者さんには、ウイルスが消える直前の肝臓の状態に応じて、定期的な画像検査を続けてゆきましょうと説明します。ウイルスが消える直前の肝臓の荒れ方(線維化)、年齢、生活習慣(飲酒、メタボリック症候群など)によっては、ウイルスが消えても、肝細胞がんが見つかるリスクが残ることがあるのです。年齢が進んでからピロリ菌を除菌した場合には、その後早期胃癌が見つかることもある、という事実にも共通するのではと思います。

ただしがんの芽が生まれていても、今は見えていなくても、定期的な画像検査は“拾い上げ”てくれるはずですよ。これが肝臓外来の日常です。

おわりに

まだ書き足りないこともあるのですが、少しはすっきりしたなという方がいらっしゃることを期待しています。



臨床検査科だより

ISO 15189:2012 を取得して

副臨床検査技師長 中嶋 雅信

臨床検査科・病理診断科は、病理診断科医師4名、臨床検査専任医師1名、臨床検査技師32名、検査助手2名で構成され、生化学・免疫血清部門、一般・血液部門、輸血・HLA部門、微生物部門、病理・細胞診部門、生理部門と広範囲に検査業務を担っています。

2018年3月に、日本適合性認定協会(JAB: Japan Accreditation Board)の審査を受審し、臨床検査室の国際規格であるISO15189:2012(検体検査・微生物学検査・病理学検査・生理学検査)を取得しました。ISO15189は、臨床研究中核病院やがんゲノム医療中核拠点病院の指定要件に規定されているだけでなく、今年の12月に施行される「臨床検査技師等に関する法律及び医療法の一部を改正する法律」においても、臨床検査の品質・精度が確保されていることを保証する国際規格です。

我々が掲げた目標は「高い水準の知識と技術を培いさわやかな笑顔と真心で患者さん一人ひとりの人格を尊重し高度医療の提供を目指す」という当院の基本理念に則し、品質向上と継続的改善を実施することで利用者のニーズを満たす臨床検査室を構築することでした。管理上の要求事項と技術的的要求事項が規定されているISO15189の品質マネジメントシステム(QMS: Quality management system)を用いて継続的改善を図ることが、長崎医療センター臨床検査科の信頼にも繋がると考えました。

約1年半をかけ全スタッフで取り組んだプロジェクトで

すが、患者さんから採取した血液や組織などの検体検査や心電図・超音波検査などの生体検査を迅速に正確で質の高い検査情報(報告)として提供するだけでなく、寄せられた苦情や要望を収集分析し、日々改善を図っています。

認定取得から約半年が過ぎ、PDCA(Plan⇒Do⇒Check⇒Action)サイクルを繰り返して行くことが今日の維持活動でとても重要なことであり、定期的に内部監査を実施して是正改善を繰り返し、品質の維持管理に努めています。(内部監査とは、日々の活動がISO15189の品質マネジメントシステムの規格要求事項を満たしているかどうかを検査科内部で審査するものであり、当検査室では役割に関係なく“監査”、“被監査”という立場で互いを律しています。)

ISO15189は認定取得費用に加え、維持管理のためサーベイランス審査や更新審査などが求められますが、「国際標準検査管理加算40点」が保険点数として認められたことで、病院収益にも貢献できています。何より国際的に認められたルールに則った言わばお墨付きをもらいましたので、品質が担保された検査データを提供できるということが、臨床検査技師として医療人としてモチベーションの向上にも繋がっています。

2018年8月現在、認定された臨床検査室は、全国で147施設、九州沖縄で19施設(九州管内の国立病院機構では3施設)、長崎県内では3施設あります。



看護部だより

糖尿病の療養でたいせつな項目のひとつ “フットケア”

糖尿病の患者さんが、その人らしい療養行動を継続できるように、当院治療中の患者さんのフットケア外来を毎週水曜日と木曜日に開設しています。担当する看護師は糖尿病療養指導士3名、糖尿病看護認定看護師2名の合わせて5名です。医師の指示のもと、チームで患者さんの情報を共有しながら、フットケアだけでなく、自宅療養ができるように療養相談も行っています。足は普段目につきにくい場所なので、生活や食事の事、病気の受け止め方等を伺いながら、足の観察を行い、足病変が発生しないように、重症化しないように適切なケアを行ない、足のお手入れ方法についてアドバイスを行っています。

《 “フットケア”担当看護師 》



《 外来の様子 》

フットケアの実際



インスリンや血糖測定器具の説明も致します



《 情報共有・学習会 》



**** 先進的な1型糖尿病治療対応もしています ****



インスリンを持続的に注入したり持続的に血糖を見ながらインスリン調整ができる機械の説明も行っています。



肝がん撲滅運動「市民公開講座」・「肝疾患患者家族支援会」のご案内

当院にて、市民の皆様・肝疾患患者さんを対象とした市民公開講座・肝疾患患者家族支援会を企画しております。

一般社団法人日本肝臓学会主催 肝がん撲滅運動『市民公開講座』

【日 時】平成30年10月4日(木) 15:00～16:00
【場 所】人材育成センター あかしやホール

長崎県肝疾患診療連携拠点病院事業『肝疾患患者家族支援会』

【日 時】平成30年10月4日(木) 16:00～16:30
【場 所】人材育成センター あかしやホール

入場は無料です。事前の申し込みも必要ありません。皆様のお越しをお待ちしております。



地域医療連携室のお知らせ

地域医療連携室では、地域の医療機関からご紹介をいただき、「診療予約、検査予約」を承っています。ご予約の際には、当院「地域医療連携室」へお願い致します。

なお、患者さんからの予約は受け付けておりませんのでご了承ください。当院を受診希望の際は、かかりつけ医（地域の医療機関）を受診されたのち、地域の医療機関からご紹介、ご予約を頂きますようよろしくお願い致します。

詳しくは、長崎医療センターのホームページをご覧ください。



緊急(緊急入院)を要する患者さん、及び受診後、直入院が予測される患者さん(重症例等)については、地域連携室を介さず当該診療科または医事部門に直接ご連絡ください。

TEL：0957-52-3121(代表)



SENSAIごはん



きのこたっぷり

あんかけ茶碗蒸し



茶碗蒸しは、卵：だし汁の割合を1:3にすると、プルプル食感の仕上がりになるよ。もう少し軟らかめが好みという人は、卵：だし汁の割合を1:4にしてみてね。



材料 (4人分)

茶碗蒸し

- 卵 2個
- 極旨香だし 300cc
- ☆ みりん 大さじ1
- ☆ うす口醤油 大さじ1
- しめじ 1/2袋

あんかけ

- しいたけ 1枚
- えのき 1/2袋
- みつば 適量
- 極旨香だし 80cc
- ★ 酒 小さじ1
- ★ みりん 小さじ1
- ★ うす口醤油 小さじ1
- ★ 塩 少々
- 片栗粉 小さじ1

作り方

- ① 卵を溶き、極旨香だしを加えて濾す
- ② しめじを入れた器に、☆で調味した①を加えて蒸す
- ③ あんかけ用の極旨香だしに、具材を加えて加熱する
- ④ ③を★で調味し、水溶き片栗粉でトロミをつける
- ⑤ 茶碗蒸しの上からあんをかける

管理栄養士 中村より



食物繊維たっぷりのきのこを使用したレシピです。食物繊維は、水溶性食物繊維と不溶性食物繊維に大別されますが、きのこ類には不溶性食物繊維が特に多く含まれています。不溶性食物繊維は、便のかさ増しや腸の蠕動運動の促進、脂肪や発がん物質などの吸着・排出作用が期待できます。また、きのこ類はビタミンDを豊富に含み、カルシウムの吸収を助ける働きをしてくれるため、強い骨づくりにも役立ちます。

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真気で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する